

平成23年度 学校評価計画に対する中間評価まとめ

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策)
1 生徒の規範意識を高め、日常活動の中で自主自律心をもって社会人となるための資質を培う。	遅刻ゼロ運動を進める。特別な事情による以外の遅刻を対象とし、各学年で遅刻ゼロ日数をカウントする。	生徒指導課 学年	遅刻ゼロ日数の指標 1学年50%(97日) 2学年60%(116日) 3学年70%(118日) A：全学年とも目標を達成した B：全学年のゼロ日数平均が60%以上 C：全学年のゼロ日数平均が60%未満 D：全学年のゼロ日数平均が50%未満	C, Dの場合、指導のあり方を検討する。	H23.7.20現在 授業日数68日 全学年の遅刻ゼロ日数平均：69.1% 達成度：B	集計時点における遅刻ゼロ日数は、1学年47日(69.1%)、2学年50日(73.5%)、3学年44日(64.7%)となっている。3学年のみが目標を下回っており、生活規律の確立を目指し、個別指導や学年集会で生徒の意識をより一層高めていきたい。
	合同HR(全校放送や集会)を随時開いて適切なことば遣いやマナーの向上を呼びかける。全校規模で行いリーダーシップの育成を図る。	生徒指導課 学年	合同HR(全校放送や集会)で規範意識やリーダーシップが育まれたと感じる生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：60%未満	C, Dの場合、取組について検討する。	生徒・教員調査(H23.7月実施) 質問の平均：A+B=84.6% 達成度：B	質問の平均 A：38.4% B：46.2% 学校行事などを通じて、話の聞き方や時間に対する意識を高めることができた。合同HRなどでさらに生徒の内面を磨くための取組を実施していきたい。
	部活動の全員加入を推進し、曖昧な理由で活動が途切れたり不参加になることを防ぐ。	生徒会課 学年	部活動に積極的に取り組んでいる生徒は A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	C, Dの場合、指導のあり方を検討する。	生徒・保護者・教員調査(H23.7月実施) 質問の平均：A+B=87.5% 達成度：A	質問の平均 A：38.5% B：49.0% 1学年で、積極的に部活動に参加している生徒が目立っている。今後の諸大会での活躍が期待できる。
	生活習慣調査を通して生徒自らが生活習慣の改善に取り組む態度を育てる。	厚生課 学年	適切な生活習慣を自律的に守る生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C, Dの場合、指導のあり方を検討する。	生徒・教員調査(H23.7月実施) 質問の平均：A+B=90.7% 達成度：A	質問の平均 A：49.5% B：41.2% 生活習慣調査の内容を改訂し、生徒が自ら目標を設定するなど、生徒の意識高揚を図った。年3回の調査で、生徒の状況をきめ細かく把握していきたい。 なお、一部であるが生活習慣の改善が十分でない生徒がいるため、粘り強く指導を継続する必要がある。
	スクールカウンセラーの活用をさらに進め、教員研修を含めた相談体制の向上を図る。	厚生課 学年	研修により実践的な支援ができた教員が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	C, Dの場合、研修内容を検討する。	教員調査(H23.7月実施) 問22：A+B=90.0% 達成度：A	問22 A：60.0% B：30.0% 入学式の時点から保護者・生徒に対してスクールカウンセラー活用を促してきた。外部機関とつながった特別支援委員会も、はじめて開催するなど、生徒を支援する体制が一つ一つ整ってきている。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策)
2 授業力の向上に常に努め、個々の生徒に応じた確かな学力をつける。また、分かる授業づくりを通じて、学ぶことが確かな未来につながることを自覚させる。	基礎基本の定着のために課題プリントや「学び直し」教材を作成し、効果的に活用する。	教科 教務課	基礎基本の定着のための教材を効果的に作成し活用した当該担当教科の教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、取組について検討する。	生徒・教員調査 (H23.7月実施) 質問の平均 ：A+B=90.2% 達成度：A	質問の平均 A：34.8% B：55.4% 基本事項が身につけていない生徒が多いので、そのための対策を、各教科毎に実施している。
	学習時間を示した放課後・週末課題等を学習帳の形式で取り組み、着実な学習習慣を身に付けさせる。	教科 教務課 学年	家庭学習時間が平日60分以上、週末120分以上の生徒が A：40%以上 B：30%以上 C：20%以上 D：20%未満	C、Dの場合、指導の方針を検討する。	生徒調査 (H23.7月実施) 平日：A+B=13.3% 週末：A = 6.9% 達成度：D	問9 平日 A：2.5% B：10.8% 週末 A：6.9% 目標にほど遠い結果であり、学習時間平日30分未満が48.8%、週末30分未満が41.4%にのぼるなど、指導のあり方を早急に見直す必要がある。 また、課題を全員に提出させることによりかなりの時間・労力を要する現状をふまえ、課題内容の工夫が必要である。
	授業で「聞く」「話す」場面や「考え」「発表する」機会を設け、言語活用能力を高める。	教科 教務課	授業で生徒が活動する機会は、授業への意欲を A：高めた B：ある程度高めた C：あまり変わらない D：高めたかわからない	C、Dの場合、指導法の改善に努める。	生徒調査 (H23.7月実施) 問6：A+B=80.7% 達成度：A	問6 A：30.0% B：50.7% 生徒が能動的・主体的に授業に参加する機会を設けることで、授業への関心・意欲や言語活用能力をさらに高めていきたい。
	習熟度別少人数授業の利点を活かし、学力の定着と学習意欲の向上を図る。	教科 教務課	習熟度別少人数授業について私は A：研修内容を積極的に実践した B：研修を受け、部分的に実践した C：研修を受けたが実践はしなかった D：研修も実践もしなかった	C、Dの場合、研修を生かす指導実践を促進する。	教員調査 (H23.7月実施) 問9：A+B=100% 達成度：B	問9 A：30.0% B：70.0% 習熟度別少人数授業では、個々の生徒への目配りができることから、生徒の授業に取り組む姿勢がよくなり、学習意欲を引き出すことにつなげている。
	研修受講や校内研究授業・互見授業を計画的に実施して、ねらいが明確な授業をする力量を高める。	教科 教務課	研修を活かしねらいの明確な授業を私は A：積極的に実践し、授業評価もよい B：実践に努め、授業評価もよい C：実践に努めたが、授業評価は不明 D：実践していない	C、Dの場合、授業改善策の実践に努める。	教員調査 (H23.7月実施) 問10：A+B=100% 達成度：B	問10 A：40.0% B：60.0% 各種の研修や校内の互見授業を実施し、それが授業の質の向上につながっている。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策)
3 学年毎のキャリア教育を有機的に関連づけ、進路意識をより深めて進路志望の100%達成を目指す。	ようこそ先輩、企業・大学見学、インターシップ等の進路学習を有機的に関連づけキャリア意識を早期に養う。	進路指導課 学年	学年毎のキャリア学習が進路選択に A：大いに役立っている B：いくらか役立っている C：あまり役立っていない D：わからない	C, Dの場合、取組について検討する。	生徒・教員調査 (H23.7月実施) 質問の平均 : A+B=91.4% 達成度：B	質問の平均 A：35.9% B：55.5% 3年間の取組の中で個々の進路選択の力量を高めていくことを狙いとしており、1学年から段階を経て着実に取り組みたい。
	教員が企業を訪問して社主から経営や就労の現場について学び、より実践的な進路指導力をつける。	進路指導課 学年	企業経営者から学ぶことによって社会の状況や就労環境がわかり進路指導に A：大いに役立った B：役立った C：あまり役立たない D：わからない	C, Dの場合、取組について検討する。	教員調査 (H23.7月実施) 問14：A+B=92.2% 達成度：B	問14 A：21.1% B：71.1% 経験を重ねていく中でさらに進路指導力を高めることが期待できる。継続的かつ発展的に取り組んでいきたい。
	進路実現を目指して個人面談をきめ細かく行う。「面談票」を作成して個々の変容を明確にし、情報の共有を図る。	進路指導課 学年	「面談票」を活用することにより進路意識と進路学習が A：大いに深まった B：深まった C：あまり変わらない D：わからない	C, Dの場合、面談のあり方を検討する。	生徒・保護者・教員調査 (H23.7月実施) 質問の平均 : A+B=90.3% 達成度：B	質問の平均 A：29.3% B：61.0% 回数・時期・内容を学年で再検討すべきである。
	中・長期的な学習課題を与え、対外模試等を効果的に活用する。	進路指導課 教科 学年	個別の学習課題や模試の活用に A：しっかり取り組んだ B：まずまず取り組んだ C：あまり取り組まなかった D：取り組まなかった	C, Dの場合、指導方法の見直しを行う。	生徒・教員調査 (H23.7月実施) 質問の平均 : A+B=80.2% 達成度：B	質問の平均 A：26.4% B：53.8% 個別対応の課題・学習指導の工夫を行うことが必要である。 中・長期的な学習課題については、生徒の取組状況をきめ細かくチェックすることが必要である。指導の時間がとれないのが悩みの種となっている。
	きめ細かい進路指導により進路実現を100%達成する。	進路指導課	希望する進路の達成率が A：100% B：96% C：93% D：93%未満	Dの場合、指導と支援のあり方を検討する。	年度末に集計	

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策)
4 地域連携による学校行事等を通して「魅力ある学校づくり」を推進し、日常活動の中で生徒の生きる力を磨き「地域の即戦力」に育てる。	魅力ある学校づくりの一環として「高校生コンサル活動」や「宝達山クリーン登山」等の行事を実施し生徒のふるさと意識を育てる。	総務課 学年	地域連携を目指した学校行事により、地域への関心と誇りが A：大いに高まった B：高まった C：あまり高まらない D：わからない	C, Dの場合、取組について検討する。	生徒・教員調査 (H23.7月実施) 質問の平均 : A+B=83.0% 達成度：B	質問の平均 A：30.9% B：52.1% ジュエルスイーツカフェ、まちなかフラワーロード、食育講習やふるさと学講演会の実施などにより、概ね良好な結果となった。今後「宝達山クリーン登山」や吹奏楽部の出前公演などを通して、地域への関心と誇りを高め、ふるさと意識をより一層育みたい。
	宝高だより、学年だよりの発行やHPの更新を通して学校情報をきめ細かく発信する。	総務課 学年	紙媒体だよりの年間発行回数とHP更新が A：5回以上・30回以上 B：4回以上・30回未満 C：いずれかが上記を下回る D：いずれも上記を下回る	C, Dの場合、取組について検討する。	年度末に集計	宝高だよりを7月に1回発行し、学年だよりは各学年2回ずつ発行している。しかしHPの更新回数が現在7回であるため、現段階では達成度Dである。HPの更新をこまめに行いたい。
	学校からの通信物を保護者に確実に届け、回収を果たすよう生徒への指導を徹底する。	総務課 学年	学校情報を保護者に届けた生徒が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	C, Dの場合、指導のあり方を検討する。	生徒調査 (H23.7月実施) 問19：A+B=69.9% 達成度：D	問19 A：31.5% B：38.4% 約30%の生徒がきちんと学校情報を届けておらず、約26%の保護者が本校の教育活動の情報を得ていない。 粘り強く生徒への呼びかけを継続するとともに、HPでも通信物の発行について発信し、B評価を目指したい。
	学校図書の講読のほか、校内で新聞を講読し時事や論説等の活字情報に親しむ活動を進める。	生徒会課 教科	家庭や学校で新聞を購読して見聞が A：大いに広まった B：広まった C：少し広まった D：読まなかった	C, Dの場合、新たな取組を検討する。	生徒調査 (H23.7月実施) 問21：A+B=46.8% 達成度：C	問21 A：15.8% B：31.0% 約2割の生徒は新聞を読んでいない。図書館において、閲覧可能な新聞の種類を増やしたり、新聞を活用した学習課題を工夫する必要がある。
	美化コンクールを継続実施し、清掃の大切さや安全な生活への意識を高める。	厚生課 学年	校内の清掃美化に A：大いに努めた B：努めた C：あまり努めなかった D：努めなかった	C, Dの場合、新たな取組を検討する。	生徒・教員調査 (H23.7月実施) 質問の平均 : A+B=80.3% 達成度：B	質問の平均 A：34.3% B：46.0% 生徒への指導が十分でないのか、校内美化の意識は、まだまだ育っていない。美化コンクールなどで生徒の意識を高めていきたい。